

令和4年度

学校運営連絡協議会報告書



東京都立葛飾ろう学校

令和4年度 東京都立葛飾ろう学校 学校運営連絡協議会実施報告書

令和5年3月

東京都立葛飾ろう学校 学校運営連絡協議会

1 組織

- (1) 都立葛飾ろう学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭、主任教諭による。
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭、主任教諭 計13名
- (4) 協議委員の構成 学識経験者1名、保護者代表1名、企業関係者1名、聴覚障害者団体2名、交流校園長1名、地域住民代表1名 計7名
 - 内藤 一郎 筑波技術大学 副学長 産業技術学部教授
 - 遠山 彰 菱信データ株式会社 取締役社長
 - 小林 哲男 本校PTA会長
 - 伊藤 敏夫 大曲町会自治会役員
 - 荒井 佳代 足立区あやせ保育園 園長
 - 森 せい子 社会福祉法人聴覚障害者情報文化センター 施設長
 - 唯藤 節子 東京都聴覚障害者連盟副会長

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、内容

第1回 令和4年6月29日（水）

協議委員委嘱、令和3年度報告、学校経営計画の説明、意見・情報交換、授業参観

第2回 令和4年11月21日（月）

各学部の教育活動の紹介、学校評価の内容検討、協議、意見交換

第3回 令和5年1月27日（金）

アンケート結果分析、学校評価の報告及び学校運営に関する提言についての協議、意見・情報交換

(2) 評価委員会の開催日時、内容、その他

第1回 令和4年11月21日（月）

学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の観点・項目、内容、実施時期・方法等の検討、授業参観

第2回 令和5年1月27日（金）

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理と提言案の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の方針

- ① 学校経営計画に基づき学校組織が円滑に機能し、学校教育目標・各部の教育目標が達成できたかどうか、生徒、保護者、地域や外部の方から評価を受け、検討する。
- ② 外部評価の結果を比較・検討し開かれた学校作り、特色ある学校作りを目指す。
- ③ 昨年度出された改善提言に対する結果を検討する。
- ④ 次年度への課題を明確にし、改善の具体策を提示して、教育課程や学校経営計画に反映させる。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・回収率

- ・12月 本校小学部高学年児童、中・高等部生徒 92%（前年度 94%）
- ・12月 保護者全員 90%（前年度 97%）
- ・12月 地域・住民 4自治会他 48件（前年度48件）
- ・12月 本校教職員 100%（前年度100%）
- ・12月 乳幼児教育相談・通級による指導・補聴相談等の相談者 7人（昨年度12人）

(3) 主な評価項目

学校運営分野、学習指導分野、進路指導分野、生活指導・人権分野、防災・安全分野、特別活動分野、聴覚障害教育分野、開かれた学校づくり分野、教職員の働き方改革など

(4) 結果分析に基づく課題と学校長への提言・意見

結果分析に基づく課題

【基本的・全体的な項目】

学校生活の満足度はどの学部も昨年度と大きな変化はなく、平均88%と肯定的評価であった。相談できる先生はいますかという項目では、昨年度と比べ全体的に肯定的評価が減少している。

【学習指導】

分かりやすい授業については、児童・生徒の評価は良好傾向にあるが、保護者の評価は低下した。教員の意識は、100%という結果であり、保護者と教員の差異が見られた。昨年度の指導力改善の課題に合わせて、教員一人一人が意識し、授業改善を行ってきた表れでもあり、教員の意識が100%、児童生徒の良好傾向に結びついている。保護者による評価の低下は、保護者の学校参観を再開したことにより、学校への要望や期待を指しているものとして捉えることもできる。

家庭学習については、学部が上がるにつれ家庭で学習する様子が見られないと回答する保護者が増え、家で学習する児童生徒の割合も同様の傾向がある。

ICT機器を活用した授業については、児童・生徒の評価も向上している。教員のICT機器を積極的に活用しているかという項目に対する数値も94%と高く、一人一人が意識して取り組んでいることがわかる。

【進路指導】

保護者の肯定的回答は9割弱と満足できる水準を維持している。「自分から進んで挨拶をする」と回答した児童・生徒は、8割程度となっている。幼稚部から高等部専攻科までである本校の特色を生かし、学部間の連携を強化して早期からの進路指導を充実させていくことを継続して行うことが必要である。

【行事】

保護者、児童・生徒、教職員から肯定的な回答が9割となっている。コロナ禍で様々制限されていたが、今年度は、各学部において宿泊行事を再開したり、中学部・高等部の部活の連携を深め、合同練習を行ってきたり、制限される中でも、感染症対策を行いながら、最大限積極的に実施に向けて新たな挑戦を行ってきた結果と捉えることができる。

【聴覚障害教育】

聴覚障害教育の専門性について、保護者の評価は小・中学部で減少がみられる。児童・生徒数が少なくなる中でコミュニケーション方法に悩んでいる児童・生徒が増えてきている

児童・生徒の評価は、ほとんどの項目で昨年度と変化がないものの、「自分の伝えたいことを先生に伝えることができますか」においては、小学部が94%から62%に大きく低下した。小学部の児童がこの設問の意味を捉えられなかった可能性もある。

【開かれた学校づくり】

保護者アンケートでは、情報を学校ホームページやツイッター、学年・学校だよりを活用して積極的に公開していることが肯定的に評価されている。

教員の「学校からの情報発信に努めている」の項目は、どの学部の教員もほぼ100%と示す結果となった。

児童生徒による評価は、昨年度と比較して小学部と中学部（小学部82%→69%、中学部65%→53%）は低下し、高等部と専攻科（高等部72%→81%、専攻科64%→82%）は上昇している。

【教職員の働き方改革】

国・都が教職員の働き方改革に取り組んでいることは約9割の保護者が認知している。1か月の超過勤務の上限が定められたことも8割以上の保護者が知っているとの回答だった。

教職員アンケートからは、ライフワークバランスについて、課題を訴える声はあるが、学校全体のストレスチェックのアンケートは昨年度を上回る結果となっている。

学校長への提言・意見

【提言1】教員の専門性と授業力のさらなる向上を通じた学びの充実

- ・授業に必要な配慮事項の「チェック・シート」や「葛飾ろう学校版・授業ミニマム・スキル」を作成・活用し、教員一人ひとりが授業を改善し、学びの充実につなげる。
- ・発達段階に即した読書活動をとおして豊かな人間性と言語力を育む。

【提言2】情報発信の充実

- ・ホームページや学校だより等の情報発信ツールをさらに充実させる。
- ・スクール・キャッチフレーズ「元気にあいさつ キャリアと心を磨き 未来を拓く 葛飾ろう学校」を活用し、葛飾ろう学校ならではの魅力を内外に発信する。

【提言3】葛飾ろう学校に関わる全ての人々が充実感を味わえる学校の推進

- ・地域、保護者、教職員が連携を図り、子供たちが達成感、充実感を味わうことができるような活動の取り組みを行う。
- ・幼児・児童・生徒が日常の保育、授業や学校生活の中で、「わかった」「できた」を積み重ねていくことができるようにする。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・アンケート結果から、コロナ禍の制限された中でも、学校が様々なことに取り組み進めていくことの重要性を確認することができた。
- ・様々な困難を抱える幼児・児童・生徒一人一人に合った指導を進めることができていることや、関係機関と連携した指導に取り組むことができていることも確認することができた。
- ・今までの教育実践の内容をより充実させていくことが、専門性の高いろう教育を継承させていくことにつながることを共通理解することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校が、実践していることを情報発信し、広く伝えていくことを通して、ろう教育の理解推進や進路選択につなげられるようにすることが課題であることが分かった。
- ・学校が元気であるためには、地域、保護者、教職員が連携を図り、子供たちが充実感を持って日々の授業や学校生活を送ることができるような取り組みの積み重ねが重要であることが分かった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 教員の専門性と授業力を高め、ICT機器の利活用の推進及び読書活動への取組を積極的に行い、学びの更なる充実を図る。

(2) 職業教育の充実と企業との連携を図り、全校で一貫したキャリア教育及び進路指導の充実を進める。

(3) 自立活動への全校的な取組（デジタル補聴システムの導入）や早期教育の充実を図る。

(4) 学校の取組と魅力を発信し、理解推進を進め、情報発信の充実を図る。

(5) 中学部・高等部における教育活動、集団活動を充実させ、更なる学部間の連携を進める。

(6) 子供たちが充実感、達成感を味わうことのできる学びの実践を通して、教職員が働くことに意義を感じることでできる職場を築く。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	6					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果
参加実績はない。

8 その他

・アンケート結果の信頼性を高めるため、質問内容及び実施方法を含め検討していく必要がある。